



議会だより

なよろ

増刊号

2016 .10 .1 発行



平成28年度名寄市議会 議会報告会報告書



(写真上はノースタウンふれあい会館会場)

も
く
じ

議会報告会を終えて	2
議会報告会実施概要	2
会場別実施抄録	3 ~ 4
市民要望等への市長の見解	5 ~ 10
アンケート調査の結果について	11 ~ 12

議会報告会を終えて



名寄市議会議長 黒井 徹

議会報告会は、議会基本条例を制定後、市民の皆様には議会活動を報告し、情報の共有を図ることと市民の意見を聴取して議会活動に活かすことを目的に実施し、今回で8回目になります。

本年は2班編成とし6会場で開催し、76人の市民の皆さんに参加していただきました。今年度は試行的に市民の皆さんとの意見交換を主体として行いました。意見交換では、議会改革、次期総合計画に関わる事項をはじめ、市政運営に関することなど多くの質問、意見をいただいたところで、なかでも、JR北海道の鉄道事業の大幅見直しについては、市民が大きな不安を抱えている問題であるとの意見をいただきました。行政の要請活動だけでなく、名寄市議会としての活動を求める声が多くあり、過日、第3回定例会において、全議員からの提案により「JR北海道に公共交通機関としての使命を果たすことを求め、共に道北地域の創生を目指す決議」を可決いたしました。今後も宗谷本線沿線自治体の議会と連携して取り組んでまいります。その他には、議会の行政に対してのチェック機能が働いているのか、行政視察の市民報告のあり方など、意見をいただきました。今報告会で寄せられた意見を真摯に受けとめ、今後の議会活動に活かしてまいります。

名寄市議会では「市民に信頼される議会を目指して」を目標に議会改革議論を進めています。市民に開かれた議会運営、情報公開として議会報告会についても検討課題としています。市民の皆さんに参加していただける議会報告会のあり方を検討し、少しでも多くの市民の皆さんと対話ができるような議会報告会を今後も開催していきたいと考えているところです。末尾になりましたが、報告会に参加いただいた皆さんに、厚くお礼申し上げます。

平成28年度 議会報告会実施概要

名寄市議会では、議会基本条例に基づき7月22、25日の2日間にわたり、市内6カ所で議会報告会を開催しました。

昨年は改選期であったことなどから全議員による議会報告会としましたが、本年は2班に分かれて実施しました。6会場において76人の市民の方に参加していただき、質問、意見、要望は建設的なものを中心に39項目となりました。あらためて参加していただいた皆さんに心からお礼を申し上げます。

市民の皆さんからいただいた質問、意見については、8月10日に正副議長と議会運営委員会正副委員長会議で内容を精査し、市長に見解を求めるべきと判断した10項目について同月12日に正副議長から市長に文書で手渡しました。

本号においては主な事項をお知らせいたしますが、より細かい報告書の閲覧を希望される方は議会ホームページまたは議会事務局までお申し出ください。

平成28年度 議会報告会 班別実施抄録

報告会は班責任者のあいさつ、出席議員の自己紹介にはじまり、配布した資料に基づき議会の1年間の報告（行政報告、政務調査費を含む）等を行い、その後、意見交換に入りました。昨年に引き続き参加者のご協力を得てアンケート調査を行い、質問項目の他に18項目の意見等をいただきました。

- 《A班》班長 奥村英俊（議会運営委員会副委員長・経済建設常任委員会委員長）
 黒井徹（議長）
 高野美枝子（総務文教常任委員会副委員長）
 大石健二（市民福祉常任委員会副委員長）
 山崎真由美（総務文教常任委員会委員）
 佐々木寿（市民福祉常任委員会委員・経済建設常任委員会委員）
 高橋伸典（市民福祉常任委員会委員）
 浜田康子（市民福祉常任委員会委員）
 東川孝義（経済建設常任委員会委員）

担当会場...名寄東小学校、ノースタウンふれあい会館、ふうれん地域交流センター



（名寄東小学校会場）



（ノースタウンふれあい会館会場）



（ふうれん地域交流センター会場）

- 《B班》班長 山田典幸（議会運営委員会委員長・総務文教常任委員会委員）
 佐藤靖（副議長・総務文教常任委員会委員）
 東千春（総務文教常任委員会委員長）
 熊谷吉正（市民福祉常任委員会委員長）
 川口京二（経済建設常任委員会副委員長）
 野田三樹也（総務文教常任委員会委員）
 塩田昌彦（市民福祉常任委員会委員）
 川村幸栄（経済建設常任委員会委員）
 佐久間誠（経済建設常任委員会委員）

担当地区...名寄市総合福祉センター、智恵文多目的研修センター、名寄市民文化センター



（名寄市総合福祉センター会場）



（智恵文多目的研修センター会場）



（名寄市民文化センター会場）

各会場からいただいた主なご意見

A班 7月22日
名寄東小学校会場
参加者9人

道路の整備について
議会改革について
プレミアム商品券について
JR北海道宗谷本線の問題について
名寄市役所の分庁方式について
駅前交流プラザ「よろーな」について
18歳選挙権について
議会運営について

A班 7月25日
ノースタウンふれあい会館会場
参加者16人

スポーツ・合宿推進について
名寄市の人口減少の対策は
公営住宅の環境整備について
高齢者が暮らしやすいまちづくりに
名寄川周辺のカラマツの間伐について
ゲートボール場の修復について
市道の除雪について
名寄市の人事交流について
議会改革について

A班 7月25日
ふうれん地域交流センター会場
参加者26人

施策実現にスピード感をもって
風連旭、日進地区スクールバスの
バス停について
防災対策について
農地の維持と後継者の確保について
病院職員の対応について
議会改革について
若い人の町内活動への参加について
高齢者への配慮について
スポーツ・合宿等について

B班 7月22日
名寄市総合福祉センター会場
参加者4人

議会運営について
市議会の傍聴について
行政視察について
総合計画について

B班 7月22日
智恵文多目的研修センター会場
参加者6人

農業施策について
智恵文に介護施設を
議会改革について
議員報酬について
行政の対応について

B班 7月25日
名寄市民文化センター会場
参加者15人

JR北海道宗谷本線の問題について
議会改革について
議会の広報広聴について
議員定数について



市民要望に対する市長の見解

1 農業施策の充実について

地域の基幹産業である農業については、高齢化や後継者不在などによる農家戸数の減少が問題となっており、今後も益々進行していくことが懸念されています。

新規就農者の確保対策を含め農業施策をしっかりと進めてほしいとの意見が出されました。今後の名寄市の農業振興施策についての市長の見解を求めます。

【回答】

本市における農家戸数は農業者の高齢化や後継者不足により年々減少しており、新規就農者につきましては、農家後継者を中心に毎年確保されておりますが、離農者数を補うまでには至っておりません。地域の農業を持続的なものとしていくため、今後も新規就農者の確保は重要な課題であると認識しております。

新規就農者の確保については、農家後継者と農業以外からの新規参入による就農者のそれぞれにあった対策が必要であります。農家後継者については、新規学卒やUターンなど多様な就業形態に応じた栽培技術の修得のほか、経営感覚を養う研修機会の創出と支援に取り組んでおります。新規参入者の確保については、栽培技術や経営感覚を養う研修の充実のほか、就農後における地域でのフォロー体制の確立など受入

体制の整備を図るとともに、農地の確保や資金面での支援が重要と考えております。

また、広く就農希望者を集めるため名寄での就農モデルを確立し、具体的な就農イメージを伝えPRするとともに、農業体験から就農の判断ができるよう、段階的な就農に向けた取り組みの実施など、これまでより具体的かつ広範に新規就農者の確保に向けた取り組みを進めていく必要があると考えております。

現在、J A・普及センター・農業委員会などの関係機関と指導農業士の方々により組織されております名寄市農業担い手育成センターで、新規就農者の確保に向けた対策について検討を行っております。次期農業・農村振興計画へ反映させるとともに、関係機関と連携して新規就農者対策に取り組んでまいります。

2 国や道の農業関連事業にかかわる対応について

国や道の農業関連事業にかかわる行政の対応について指摘がありました。

事業内容についての情報収集や周知が遅い事に加え、担当職員が事業内容について十分理解していない、との意見が出されました。

また、ある近隣自治体においては、農業者に対して非常に分かりやすい資料で情報周知をしているのに比べ、当市の周知方法では事業内容が分かりづらいなどの指摘もありました。これらの意見についての今後の対応も含めて市長の見解を求めます。

【回答】

農業政策等につきましては、毎年発行しております「名寄市農林業施策の概要」で農業施策の全般的な情報を周知しているところです。また、国・道の補助事業に関しては、具体的な事業要望の調査について北海道など関係機関からの通知を受け、農業者の皆さまに周知しておりますが、通知から調査締め切り期限の都合により余裕が無い場合もございます。今後の対応としましては、継続的に取り組まれ、採択要件などが確定している事業につきましては、例年のスケジュールを参考にあらかじめ情報提供するなど、早期の情報発信に努めてまいります。また、的確な情報提供にむけ関係機関との連携を強化し、補助制度についての情報収集と内容を検討する体制整備や、情報提供の手法などについて検討してまいりますと考えております。

3

高齢者福祉の推進について

当市においても高齢化率は高くなってきており、今後も上昇が見込まれています。

また、介護を必要とする高齢者も増加している現状にあります。

高齢者にとっては、介護が必要となっても生まれ育った住み慣れた地域でいつまでも暮らしたいという願いがあるものの、現実には市内の介護施設、介護人材の状況等から他市町村の施設に入所することを余儀なくされているケースも多いため、高齢者のニーズに合った介護施設の建設を求める意見がありました。

今後の名寄市の介護をはじめとする高齢者福祉について市長の見解を求めます。

【回答】

本市の高齢化率は本年7月末で31・03%、65歳以上の高齢者のうち要介護認定を受けている方が本年4月18・05%で昨年の同月では高齢化率が30・35%、要介護認定率が17・89%でいずれも上昇しているところです。

現在、市内の入所・居住系施設

の総定員は443人、また高齢者等の生活に配慮した設備等を備えた公営住宅であるシルバーハウジングが52戸設置されており、

入所・居住系施設の一部では介護職員の不足により定員を充足できない状態にあります。名寄市が設置し、指定管理者



として社会福祉法人名寄市社会福祉事業団が運営する特別養護老人ホーム清峰園及びしらかばハイツでは、理事会等の意見を踏まえ、人材確保のために、事業団のホームページの開設や大学、専門学校への訪問等を行い、広く情報発信を行い人材確保に努めているところです。

高齢化率や要介護認定率の上昇に伴い、「名寄市第6期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画」において、居住系サービスとして「認知症対応型共同生活介護」を18人、「小規模ケアハウス」（特定施設入居者生活介護）29人を新規に計画し、市内事業者に募集しましたが、応募がない状況でした。しかし、本年11月に、民間事業者が新たに住宅型有料老人ホームを1棟19人定員で開設する見込みとなっております。市といたしましては、今後、低所得の方々の福祉的住まいとしての施設の必要性を認識しており、名寄市総合計画（第2期）においても高齢者の住まいの確保を実施計画事業としてまいりたいと考えております。

4

道路等の整備について

高規格道路名寄インターチェンジの周辺整備と道路整備を進めることが、今後の名寄市の経済発展と市民や近隣住民の利便性につながるとの意見がありました。

名寄市としての考え方と今後の取り組みについて市長の見解を求めます。

【回答】

名寄バイパスが建設されて以降、下川方面につながる19線の交通量の増加や利便性を踏まえ、従来より国に対し国道239号線と19線をつなぐバイパス建設の要請をしているところであります。国からは、士別市多寄から名寄間の高規格幹線道路の早期着手、完成が優先案件であることから、早期の事業化は厳しいとの見解をいただいておりますが、今後も引き続き関係自治体とも連携しながら要請を続けてまいります。また、インターチェンジ周辺の道路整備（改修）につきましては、今のところ具体的な改修計画はありませんが、今後、市民の皆様の意見を伺う機会を作るなど、名寄市が一体となって答えを出していけるよう努力してまいります。

5

JR北海道宗谷本線の問題について

JRの関係で市長は国交省等に足を運んで宗谷本線の存続を要望していますが、この問題は北海道全体の問題として、北海道市長会や地元選出の国会議員を含めたオール北海道の体制での取り組みを進めるべきとの意見がありました。今後の対応について市長の見解を求めます。

【回答】

鉄路の問題につきましては、北海道内でも判断にばらつきがあり、バス等への変換を決める自治体も出てきております。北海道内が鉄路存続に向けて一枚岩で取り組むことあたり課題もありますが、宗谷本線は日本を縦断する大動脈路線で

あり、宗谷本線活性化推進協議会を中心に、引き続き関係機関に対しまして、広大かつ豪雪地帯の北海道において必要不可欠な交通インフラであることも含めて要望を続けてまいります。

6

公営住宅の環境等の整備について

市内の公営住宅において、入居者の高齢化に伴い環境整備等が困難な状況になってきているとの指摘がありました。行政としての今後の対応と公営住宅の環境整備の考え方について市長の見解を求めます。

【回答】

市営住宅は市内に15団地あり、団地ごとに住宅や周辺環境も異なっております。

各戸に割り当てられている菜園スペースは入居者、その他のスペースは共同で管理することとなっております。

市営住宅の管理方法につき

ましては、新たに入居される方には「住まいのガイドブック」をお渡しし説明しているほか、既存入居者に対して収入申告の案内に合わせてチラシを同封して周知させていただいております。



菜園等のスペースについては、入居者の多様なニーズに対応できるよう、花壇や家庭菜園として利用いただいております。趣味や入居者間の交流の場として有効なものと考えております。

また、市営住宅は住宅に困窮する低所得者向けに提供している賃貸住宅であり、高齢者向け住宅以外に入居の際の年齢制限などはないことから、様々な年代や家族構成の方に居いただくことが前提であり、その時々の入居者の意向に合わせた団地の管理は困難と考えております。

入居者の高齢化が進んでいることは理解しておりますが、入居者間で共同意識を持って環境整備にご理解とご協力をお願いいただき、快適な住環境を維持できるようにお願いいたします。

7

少子高齢化施策への対応について

少子高齢化に伴う市民要望については、日常的にニーズの把握に努め具体的な施策を進めていると認識しておりますが、参加者からは「行政の対応が遅い」「制度が形になるのが遅い」などの意見がありました。市民への説明も含め十分な対応がなされていたのか、また今後の考え方について市長の見解を求めます。

【回答】

本市の子ども・子育て支援に係る施策については、地域の子育てに関するニーズ調査を実施し、これをもとに平成27年

度に「名寄市子ども子育て支援事業計画」を策定し、「ここで育つて、ここで育ててよかった」といえるまちを目指して子ども・子育て支援策を進めております。平成26年8月受診分より乳幼児医療費無料化の拡大を実施し、平成27年度以降は地域子育て支援センター「ひまわりらんど」の開設、乳幼児紙おむつ用ごみ袋支給事業、ファミリー・サポート・センター事業の開始など、新たな事業を実施しております。

児童クラブ開所時間に関するアンケート調査については、本年6月中に保護者に配布する準備を進めておりましたが、児童クラブの開所時間を延長する場合、人件費の増加などにより保護者負担が増えることも想定されることから、負担が増える場合の保護者の考え方をアンケートに反映させるなど、質問内容の精査に時間を要したため、8月末に利用者に調査票を配布いたしました。

新たな事業の実施・拡充については、継続的な施策の実施と合わせ、名寄市総合計画における総体事業の中で人材確保や事業実施経費などを考慮し、段階的に実施してまいりますのでご理解願います。

出生数の低下と市外への転出者数の増加が一層進んでおり、人口減少の加速化がさらに危惧される状況にあることから、国の取組とも連動し「名寄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。親や子どもが「この環境で子どもを



育ててよかった」、「名寄で育つてよかった」といえるまちを築き上げるための施策を継続してまいります。

8

防災対策について

一昨年8月に集中豪雨による大きな被害がありました。近年、毎年のように発生する大雨や集中豪雨は市民生活や農作物などに大きな被害をもたらしています。

河川を中心とする日常的な状況の把握と具体的な対応を求める意見がありました。市長の見解を求めます。

【回答】

昨年の関東東北豪雨を受け、関係機関と連携した取り組みが強化されているところです。

重要水防箇所の巡回につきましては、名寄河川事務所のほか関係機関と毎年1回から2回実施しているところであり、昨年10月は重要水防箇所の地先の町内会の方々と巡回を実施しております。

市が管理する普通河川においては、毎年少しずつではありますが河川の雑木処理、床浚い、護岸整備を進めているところであり、また、国や北海道の管理する河川についても、毎年要請を行い要請箇所について整備や維持補修を進めていただいているところであり、今後も引き続き要請を続けてまいります。

また、普通河川における現地の把握については、定期パトロールを実施し現状の把握に努めているところであります。

9

市役所の分庁方式について

合併以来、市役所は分庁方式となっておりますが、参加者からは同方式の不便さを指摘する声がありました。この間、議会でも「次期の総合計画に盛り込む」との答弁がありましたが、合併後の10年間を総括し、今後の庁舎のあり方について方向性を示す時期と考えます。市長の見解を求めます。

【回答】

平成18年3月の合併に向けた両市町の合併協定では、将来の新市の事務所の位置は、地理的状况等を踏まえ新市において改めて協議し、それまでの間は両庁舎を有効活用することとし、平成21年度から23年度にかけて両庁舎の大規模改修を行い、老朽化した庁舎の延命を図りながら活用してきております。

また、両庁舎とも耐震化を行っておらず耐震改修工事が必要ではありますが、実施については庁舎の将来像も含めて次期総合計画の中で検討することとしております。

次期総合計画の素案につきましては、両庁舎とも耐震化が行われていないことから、災害時における災害対策の拠点としての機能や業務継続方法、市民・来庁者・職員といった施設利用者の安全確保、そして庁舎のあり方について調査研究を進めるとしておりますので、計画を進める中で方向性を示していきたいと考えております。

10

カラマツ人工林の間伐について

市内のカラマツ人工林の間伐が遅れ、植えたものがそのままにされている等の深刻な状況が見受けられるとの指摘がありました。対応と今後の林産業の活性化に向けた市長の見解を求めます。

【回答】

市森林整備計画では、カラマツ人工林については主伐期を30年、推進伐期を50年とし、それまでの間に4回程度の間伐を行うことが必要であると定めています。市有林については市民共有の財産として国・道の補助事業を活用して年次的に間伐を進め、優良な森林づくりに努めております。

私有林につきましては森林組合が各所有者の意向をとりまとめ、施業計画を作成したうえで事業実施する仕組みとなっておりますが、木材価格の低迷等を背景とした森林所有者の造林意欲の低下によつて間伐が遅れていたり、施業集約化が図れずに間伐が先送りされたりする箇所もみられます。

市では、私有林の除間伐を推進するために国・道の補助金に加えて、市独自の補助も上乘せして行うなど、健全な森林育成を推奨しており今後においても森林組合等と連携し、補助事業を活用しながら効率的な施業を推進するよう取り組んでまいります。

アンケート結果

7月22日、25日の2日間、市内6会場で開催しました議会報告会でご回答いただきましたアンケートの集約結果は次のとおりです。また、ご回答いただいた市民の皆様は70人で、回答率は92・1%となっています。

()の数字は回答者数です。

問1 あなたの年齢は

20代(なし) 30代(1人) 40代(3人)
50代(7人) 60代(21人) 70代以上(36人)
無回答(2人)

問2 あなたの性別は

男(55人) 女(13人) 無回答(2人)

問3 これまでに議会報告会に何回出席したことがありますか

1回(18人) 2回(17人) 3回(10人)
4回(3人) 5回以上(11人) 初めて(4人)
無回答(7人)

問4 議会報告会の内容についてはどうでしたか

(全体的に)

よかった(26人) ふつう(36人)
よくなかった(1人) 無回答(7人)

(報告内容は)

よかった(18人) ふつう(39人)
わかりづらかった(4人) 無回答(7人)

(意見交換の内容は)

よかった(36人) ふつう(24人)
よくなかった(2人) 無回答(8人)
今後改善すべきことがあればお書きください

- ・議会と市民の間が遠くなったのではないかと。
- ・議会報告会の中身のお知らせと連絡を考えてはどうか。
- ・議会が何をなすべきかが浅い気がする。
- ・議会を見ても緊迫した様子が見えない。
- ・経済を取っても名寄は今過疎化の道をたどっている気がする。

- ・議会が率先に行政をリードする気で進んでほしい。
- ・参加者を増やす手立てを考える。
- ・議会からも提言をしたら良かったと思う。
- ・会の多数参加の為の方法を検討。
- ・色々な意見があった事は良かったと思う。
- ・今後も意見交換をしてほしい。
- ・質問を受ける前段に要約して質問するような進行をしてほしい。(聞いていて何を聞こうとしているのか分からないし、内容が見受けられないため)
- ・議長の返答が長すぎる。
- ・質問の時間を短縮させるべき。
- ・市民の意見、声をあげてほしいと考えているのであれば、このような会を沢山行うべきだと思う。
- ・市民に開かれた議会運営を強く希望する。
- ・若い方にもこの様な会に参加できるような方法はないのでしょうか。

問5 議会だよりはお読みになりますか

毎回読んでいる(49人) 読まない(1人)
たまに読んでいる(19人)

無回答1人

問6 議会ホームページはご覧になりますか

よくみている(15人) たまに見ている(24人)

まったく見ない(21人) 無回答(10人)

問7 議会中継(同時中継、録画中継を含め)はご覧になりますか

たことがありますか

よく見ている(8人) たまに見ている(18人)

まったく見ない(37人) 無回答(7人)

問8 議会を傍聴したことがありますか

傍聴したことがある(28人)(平均3・5回程度)

傍聴したことがない(40人) 無回答(2人)

問9 議会に対してご意見があれば、自由にお書きください

・議員定数の減で市内を見る目と市民の声を聞く耳が減った事は大変残念だ。

・今回の選挙を通して市民は議会を軽く見ている気がする。議員と市民の繋がりが細くなっている。

・議員の質問を聞いていても市民の生活もよいが、名寄の進む道を質問してほしい。

・市民の政治への関心を高めるには議員一人ひとりの働きかけが必要。

・議会改革を市民の見える形で実現に向け努力してほしい。もっと身近に話し合いたい。

・定例会の質問通告で質問事項のメイン主旨についてネットでも掲載できないか。

・何を主目的として市に取り入れ、取り組みを促しているのか。

・議員個人の個性のある質問が多くなると市民も市議会への関心を深めることになると思う。

・議会報告会の重要性は大きく回数を増やしてほしい。(ほか1件)

・カラマツ林の間伐が遅れている実態を把握し、行政の具体的な考え方を引き出し、名寄の大事な資源に希望が持てるよう検討してほしい。

・平成10年に移住して来た者だが、名寄はJRも通り病院も沢山あって住みよい町だと思う。私は満足している。

・今回の報告会の存在を知ったのは「新聞局員」だったため。そうでなければ知る事はなかったと思う。高校生の意見を聞くことや若い人の意見を吸うにはもっと認知してもらう必要があると思う。

・高校生が来ていてびっくりしました。高校生の意見を取り入れる様になればいいなと思う。

・報告会は今回の様に説明を少なくしたことは成功だと思う。今後も意見を聞くことが信頼に繋がると思う。

・各委員会の報告会も検討されているようなので委員会に絞ったテーマがあれば準備して参加が出来るため是非実現してほしい。

・市民生活をおくる市民の思いを形にできるよう働いて下さい。

・議員の皆さんが頑張れるよう応援しています。

・ご縁を頂き名寄へ移住して1年(2015年7月1日転入)です。未だ右も左もよく理解出来ていませんので一歩一歩学習を重ねていきたいと思う。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。